

同窓会だより

●発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1

ホームページ <http://www.dosokai.ne.jp/kenfuna/>

E-mail funaobog@gmail.com

●印刷 (株)サラト

姫路市北条宮の町172番地

TEL 079-284-1380

題字／小原天簫先生



2017年9月26日 球技大会下グラウンドにてソフトボールの試合

母校はいま

母校は、今、百周年を目前に記念行事などをどうすべきか動き始めています。一世紀という時間の中で約3万人を超える同窓生が、ここ船橋高校で貴重な青春時代を送ってきました。今も尚、我が後輩たちは、青春の輝かしい時間を大変有意義に過ごしています。勉強はもとより、部活動、学校行事、委員会そして恋愛や友情を深めています。この辺りは、私たちの高校時代と比べると変わりがありません。時代が進み、黒電話からテレホンカード、ポケッタベル、携帯電話からスマホへ生活様式が変化していても、高校生は本質的には変わらないのです。

船橋生は、少し真面目にこぢんまりするように思えます。世間も草食系男子なんて言われていまして、肉食系でスマートな感じは、昔の生徒はもっと多かったりする者もいたように思います。今や生徒の男女比も約半分半となりまして。羨ましい限りです。昔は、男女比が3対1もしくは4対1くらいだったと思います。そういう意味でも、肉食系でした。女子は、いつの時代も変わらず元気です。変わったといえば、時代が許さないうちからかもしませんが、個性豊かな生徒や先生、さまざまな学校行事などがあると思います。世間でも、小学校・中学校の運動会から組み体操や騎馬戦・棒倒しなど無くなっていく時代ですから、致し方ないと言えなくも、だからといって、我が後輩たちが元気が無いわけではありませんが、ご安心ください。

私も、40年前に船高を卒業した者ですが、その頃の船高も大変面白かったです。先輩方の時代には、学生運動の影響を受けた時代もあつたようですが、私たちの頃は、その波もおさまつた頃でした。高校に入つて驚いたのは、授業中に詩吟をうなったり、先生方がさまさま、大変個性が強く面白い授業が多かったです。記憶しています。また、教育への情熱を感じさせてくれた先生方が多かったと思います。私も、そのような先生方の姿に憧れ、教育の道を目指しました。幸運なことに、母校にて保健体育の教員をさせていただきました。

歴史、船橋高校の保健体育科にも素晴らしい先生方が綺羅星の如くいらっしゃいました。お名前を挙げたいところですが紙面の都合上、柔道関係だけでも、故青柳正吾先生・故渡辺宏道先生・磯崎俊二先生・木曾滋先生・田中督先生・そして末席に私です。私も生徒や教員として、高校3年間・平成元年から9年間・平成25年から5年の合計17年間、母校に、身を置いて母校を見てきました。かつての先生方は、生物の小滝先生の36年間を筆頭にとても長く在籍されていました。現在は、最長10年間の縛りがあります。かつての先生方の船高への思いは強く離任式は、長かった記憶があります。

体育的な行事も、当時とは大分様変わりしました。運動会が、陸上競技大会に変わり今年で31回目になります。若い卒業生には、船橋高校のグラウンド

で運動会が行われていたことを知らないものが多いです。現在、陸上競技大会は、船橋市運動公園陸上競技場をお借りして行っています。さらには、マラソン大会がなくなりまして。かつては千葉県総合運動場や検見川の東大ランドなどで行っていた記憶があります。宮本中学側にあつたプールで水泳大会がありました。今は、水泳の授業は選択になつていません。体育の選択といえは、かつては1年生男子、柔道・2年生男子、剣道、女子は家庭科なんて時代がありました。今は、入学時に男女共修で、柔道・剣道、ダンスを選択して1年間週に1時間おこなっています。家庭科も男女共修です。柔道大会・剣道大会・冬の早朝の授業生徒の寒稽古と女子の作つてくれたおしろいも今は昔の思い出であります。

1年生の林間学校や希望制だつたと思いますが保田への臨海学校など校外行事も多かったです。たばな祭・球技大会や予選会・合唱祭などは、今も盛んです。文化祭の後夜祭はありますが、体育館での実施になり、私たち男子が高校時代とても楽しんだグラウンドでキャンプファイヤーを囲んでのフォークダンスも昔の話です。我が母校は、スーパーサイエンスハイスクール(SHS)に指定されたり、千葉県立の進学重点校に指定されたり、生徒は、土曜授業や進学補習・模擬試験・研究や実習、オーストラリア短期留学やSSH台湾研修など新たな行事も盛りだくさんです。

いつの時代でも、社会の影響を受けながら、校内行事は変化してはいますが、船高生である我が後輩たちの遺伝子の中には先輩方の真摯な高校への思いが受け継がれています。そういう意味では、素晴らしい学校であること断言できます。ご安心ください。母校は、今という題をいただきながら、書き始めると今は昔という感じ、年取ると昔話が多くなるのです。あしからず。

千葉県立船橋高等学校昭和52年3月卒
保健体育科 教諭 鳥飼 一城

同窓生 & 在校生 (平成29年10月1日現在)

同窓会会員総数	33,805人
名簿登録数	33,426人
内全日制	27,219人、定時制5,134人、恩師1,073人
住所不明者数	10,771人
在校生	
全日制	男629人 女463人 計1,092人
定時制	男156人 女96人 計252人
教職員	全日制84人 定時制32人 計116人
内同窓生	14人



会長挨拶

同窓会会長
子安啓司 (昭和43年卒)

本年も押し迫ってまいりましたが、振り返りますと全世界的な自然災害、テロ等、中国の海洋進出、北朝鮮の核実験・弾道ミサイル等と末世的の様に突入しかねない状況が続いた一年でした。明るい話題は、オリンピック、サッカー、柔道、卓球、パドミントンなどスポーツと藤井棋士など若い世代の活躍。特に9.98秒の桐生選手には感動を禁じえません。漸く10秒の壁を日本人も切れました。

一方2020年秋に想定された母校の創立百周年式典まで3年を切りました。これを受けて、1.記念式典と講演会 2.記念誌の発行 3.教育活動・部活動の推進 4.国際交流事業の推進 5.同窓会名簿の刊行 6.その他百周年記念事業の一環として必要な事柄を行うことを目的とした千葉県立船橋高等学校創立百周年記念事業実行委員会が、PTA・同窓会・学校・定時制教育振興会を推進母体に、前船橋市長 藤代孝七氏(昭和36年卒)を実行委員長として準備し、発足を目指しております。5.同窓会名簿の刊行につきましても、2,000名を超える同窓生の協力により判明率68.1%にて11月には刊行できました。今後はこの名簿を基に諸事業を行う原資としての募金活動を開始することになります。

ご存知とは思いますが、千葉県は県財政健全化計画として、学校を含めた県有建物の目標使用年数を65年から80年に延長するという県有建物長寿命化計画を打ち出しております。このため母校の建て直しはなかなか望めないどころか、時代にキャッチアップすべきIT設備等の整備もままならぬ状況のようです。県立高校では県予算で整備すべきもですが、県財政状況を踏まえ、3.教育活動の推進の一環として、学校側と協議し、教育設備の充実のための必要資金を募集目的としていく方向で検討しております。創立百周年という節目に、求められている同窓生の力を結集できればと存じます。各界で活躍なさってきた方、活



ソフトとハードの改革とこれからの

校長 百瀬明宏

同窓生の皆様には、日ごろから本校の教育活動に御支援御協力を賜りまして、誠にありがとうございます。平成三十二年の百周年記念式典まで三年を切りました。校内でも本格的に準備活動が動き出しました。

さて、平成二十九年は高校教育界にとって大きな変革の年でした。七月に高大接続改革の大きな目玉の一つである大学入試改革の方向性が発表され、これまでのセンター試験に代わって「大学入学共通テスト」という名称の試験を導入し、記述式問題の実施、英語の四技能試験と外部資格・検定試験の導入といった内容で、平成三十二年実施の試験から実施することが発表されました。試行として実施された問題も公表され、これまでも大きく異なる内容となっております。

本校での授業や定期考査は、このような試験の変更があっても揺るぎのないものだと思っておりますが、個別大学入試や制度変更に伴う種々の変更が予想されることから、今後とも情報収集を進めながら、本校の教育活動をさらに改善していきたいと考えており、まさにソフト面での改革の年となりました。

次に、昨年九月に千葉県が発表した県有建物長寿命化計画により、本校は今後五年間で大規模改修の可能性の高い学校に指定されました。来年度以降どのような形で改修等が進むのか未定ですが、安全でこれまでに以上で快適な学習環境になるよう県教育委員会と協議を進めていきたいと考えております。まさにハード面での改革の年となります。

躍中の同窓生の皆様の益々のご健勝を祈り、母校及び母校同窓会へのご協力ご助力をお願い申し上げます。



ご挨拶

教頭 齋藤則夫

今年度より教頭として着任しました齋藤です。よろしくお願いたします。

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

船橋高校は、3年後の2020年に創立100周年を迎えます。その歴史に裏打ちされるように、本校の卒業生はあらゆる分野で名声を博し、貴重な人材として全国で活躍しております。

特に、スーパーサイエンスハイスクールと進学指導重点校の指定を受け、先生方の熱心な御指導により、その成果は様々な実績を通して強く感じられるところです。生徒は、この充実した環境で未来を見据えながら、濃密で有意義な3年間を送っています。

文武両道で何事にも懸命に取り組む生徒と惜しみない愛情で見守る保護者の皆様。そして愛



ご挨拶

副校長 池田浩二

本年度の四月に副校長として定時制に着任し参りました池田でございます。この場をお借りして、同窓生の皆様にご挨拶申し上げます。

同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動に多大な御支援を賜り、誠にありがとうございます。

創立百周年を間近に控えた県立船橋高校に着任して同窓会の活動に接し、これまでの本校の発展を生徒として、同窓生として支えてこられた皆様の息吹をひしひしと感じております。

今日の定時制は、様々な事情から他校を中途退学した者、中学校まで不登校だった者、日本語を母語としない者、特別な支援を必要とする者など、多様な生徒が学ぶ場に変容しております。本校は、県内の夜間定時制としては最大規模の学校であり、多くの生徒が在籍し、仕事と学業を立派に両立して頑張っている生徒もたくさんおります。一人でも多くの生徒が夢をもって卒業していけるよう、定時制教育の一層の充実に進進しなければならぬと感じております。

在校生を見ていると、授業にも部活動にも、行事にも、ひたむきに努力する姿が、とてもまぶしく、感動させられます。七十四年目を迎える定時制の歴史と伝統を受け継いで、一層発展させることができるよう、現役生徒と職員が一丸となって、学校の新たな一ページを積み重ねて参ります。

今後とも、同窓生の皆様の変わらぬ御支援をよろしくお願申し上げます。

校心に溢れた同窓生の御協力は、本校の伝統であり誇りです。今後本校の更なる発展のために、精一杯力を注いで参ります。同窓会の皆様におかれましては、引き続き暖かいお力添えをよろしくお願申し上げます。

平成三十年

『春の同窓会』ご案内

実行委員長

下山 信美 (昭和51年卒)

今年度も恒例となりました春の同窓会を二月十一日(日)に地元の船橋グランドホテルで開催させて頂きます。

二度目の東京オリンピックが開催される二〇二〇年に船高は百周年を迎えます。諸先輩が脈々と築き上げてきた伝統の一ページを担う大役を仰せつかり大変に光栄に思っています。船高は全国レベルでは少し地味な印象もありましたが、野田佳彦君やクイズ研究会などの活躍もあり「輝く歴史」に一層の輝きが増した様に思います。

スーパースイートスハイスクール(SHS)の指定を受け、教育環境も一層充実してきています。頼もしい後輩が船高の伝統をさらに盛り上げてくれることを信じております。

機会があれば野球部の応援に球場へ行き、懐かしい校歌を思いっきり歌うことがあります。そこで目にするのは父母会の活躍です。一観客である私にまで冷たい飲み物を配ってくれる皆さんに頭が下がります。ただ自分が生徒の時は、親は学校の活動に顔を出すことなど余りなかったことを考えると随分親子の関係も変わったのかなと思えます。

賑やかな同窓会の会場で思い出話に花を咲かせれば、色褪せつつあった白黒写真が少しずつカラー写真になるように鮮明な記憶が蘇ってきます。来年は平成最後の年となるようです。この節目の年にぜひとも多くの同窓生の皆さまに春の同窓会へ、ご参加頂きますようお願い申し上げます。

船高の歴史 (三二)

根岸茂行先生のこと

小川 信雄 (元千葉県立千葉高校 教諭、一九六三年卒)

現在にいたるまでの千葉県立船橋高校には優れた先生方が在籍していた。そのなかから「自由」を尊び、知的にも教育的にも優れていた美術・工芸の根岸茂行先生を取りあげたい(私自身は生徒として、また教員としても同じ職場に勤務していた。先生は二〇一七年九月五日に亡くなりました。先生は一九三〇(昭和五)年一月六日に生まれました。一九四三年四月に千葉県立千葉中学校(現千葉県立千葉高等学校)に入塾して、戦後の学制改革によって千葉中学校から新制の県立千葉高等学校に編入し、一九四九(昭和二四)年三月に同校を卒業した(註)。

その後、五三(昭和二八)年四月に東京芸術大学美術学部絵画科油絵部に入塾し、五七(昭和三二)年三月に卒業し、翌年四月から千葉県立長生高校の教諭となった。同校に三年間、勤務した後、千葉県立船橋高等学校に一九六一(昭和三六)年四月に転勤し、六八(昭和四三)年三月まで七年間、芸術科美術を担当した。同年四月から県立八千代高等学校(昭和五三)年四月に船橋高校に勤務し、芸術科工芸を一年間、担当し、一九九一(平成三)年三月に定年により退職した。先生は千葉県立船橋高等学校の芸術科教師として二〇年間、在職したことになる。

根岸先生は生徒たちにはどのような先生であったのだろうか。私の同級生で東京芸術大学美術学部に進学し、現在にいたるまで創作活動に精力的にとりくみ、また美術学校の教師も勤めている小林正勝さんから聞き取った話に私の見解もくわえて述べたい。

先生は美術的な素質、能力があり、本人も美術系大学への進学を希望している生徒への指導や援助など熱心におこなっている。一九五〇、六〇年代の東京芸術大学美術学部への現役合格は約一〇%程度であったといわれる。その原因の大きなものは実技試験の難しさにあったようである。例えば現役生徒ではそのクローッキー(『広辞苑』によれば、crossed short timeで縮減する写生。速写。英語のスケッチに相当する語。日本では写生をスケッチ、略画、速写画をいう)などの能力が不足していることが多かった。美術学部志望の生徒は二浪、三浪して合格することが多かった。美術系の予備校がほとんど存在しない当時、先生は美術系の進学希望者へのクローッキー指導を熱心におこなひ、また美術系の浪人生にも指導をしたという。さまざまなかたちで資金を融通して年間

数回、学校にモデルを呼び、生徒にクローッキーに習練・習熟するように指導した。

こうした姿勢は県立船橋高等学校の生徒だけに限らず、千葉県下の高等学校の生徒のレベルアップにもつとめた。各高等学校の美術教師に呼びかけ、東京芸術大学美術学部の助手を審査委員に呼び、各校の生徒を集めて、デッサンコンクールなどもおこなったという。小林正勝さんによれば当時、東京芸術大学美術学部には県立船橋高校の卒業生が約一〇人も在学していたという。先生の指導の成果である。

先生のとくに優れて生徒の模範になるところは、生徒への指導のレベルの高さのみならず、また自身自身も創作活動に熱心であったことである。美術教室で生徒が熱心に活動する傍ら、自分は美術準備室で創作にはげんでいた。私などもそうした先生の姿を見ていた。先生は当時、抽象画にもとりくんでいようである。教師として指導のみならず、先生が美術家として熱心に創作活動をおこなう姿は生徒に大きな、よい影響をあたえたのである。

先生が一九七八年からまた県立船橋高校の芸術科教師として勤務したが、それは全国的にも希少な存在である工芸科の担当であった。工芸で取り扱う範囲は、人間が生きていくために何かに使う目的で作った小さなものから巨大なものまですべてを含んでいて、生活のなかで見ているすべてのものを含んでいる。それをデザイン・制作することによって、鑑賞力や表現力を深めて、自己を豊かにすることが工芸の目的であった。したがって彫刻や陶芸またカメラ制作なども陶芸では「橋梁窯」を作り、そこから森哲郎さんなど陶芸家も生まれている。工芸においても優れた指導をおこなったのである。『千葉県立船橋高等学校七〇周年記念』に際して美術・工芸などで作家活動を続けている卒業生によって『県立船橋高校卒業生美術作家展』が一九九一年二月二十八日(三月五日)に船橋東武百貨店で開催されたが、そこに出品した作家たち、卒業生たちは先生の指導をうけた人びとであった。

定年退職後の先生は千葉市内で絵画教室を指導していたが、創作活動は衰えることなく、風景画や人物画にとりくみ、毎年、作品の展覧会をひらいていた。先生の創作の意欲、活動は現役の教師時代とかわりはなかったのである。

(註) 私は県立船橋高校全日制の教員として在職した当時、先生とある話をしたことを思い出すが、そのことを紹介したい。

先生が旧制千葉中学校の生徒の時代はアジア太平洋戦争の末期であるが、学校にいる時、空襲警報が鳴り、校内の防空壕に飛び込んだ。その壕内は一年先輩の高橋益雄さんと高橋治さん二人がいたということであった。この二人は直接的、間接的に私には関係の深い人たちで、先生とも合わせて、何か不思議な縁を感じたことがある。

高橋益雄さんとは私が船橋市立海神中学校の生徒の時に影響を受けた先生であった。先生の社会科(歴史)の授業、幕末・維新期に日本が英米仏など列強からの圧力によって開国をせまられた対外的な危機の時、それをはねのけて独立を維持した原因は日本の民衆の力量にあると説明し、ある史料をガリ版刷りにして配布した。その史料はイギリスの初代駐日公使R・オールコック(『大君の都』幕末日本滞在記)岩波文庫)ないしアメリカの初代総領事T・H・ハリス(『日本滞在記』岩波文庫)の著述からの一節であったと思うが、なるほど歴史とは興味深いものだと思った。高橋益雄先生は旧制千葉中学校卒業後、教員資格を得て中学校教員となっていたが、私が歴史学(近代現代日本史)を学び、研究するひとつのきっかけを与えてくれた先生であった。

高橋治さんはその履歴によると千葉中学校卒業後、旧制第四高等学校(現金沢大学)に進み、その後、東京大学文学部に進み、卒業後、松竹に入社して映画監督、脚本家も勤めて作家となり、直木賞を受賞している。数多くの作品のなかでも異色なものは『派兵』(第一〜四部)一九七三〜七七年、朝日新聞社)の四冊である。この作品はシベリア出兵(一九一八〜二二年)、日米英仏伊などによるロシア革命(一九一七〜二二年)について、専門家にも知られていなかった数多くの史料を発掘して、出兵の具体的な内容や背景を明らかにしたドキュメントあるいはノンフィクションである。私はこの『派兵』を読み、シベリア出兵の内容や背景を具体的に知ったが、今もって印象の深い著作である。

根岸先生との偶然に近い話から高橋益雄先生と同級生の高橋治さんとの縁があらわれたことは不思議なことであった。

※本稿に執筆にあたっては県立船橋高校校長白瀬明宏先生と山田敏明先生、元船橋高校教諭の坂田武昭先生、また小林正勝さんの援助を頂きました。感謝します。

参考文献
『千葉県立船橋高等学校七〇年史』
(一九九二年一月)



アジア航測株式会社
小川紀一郎
(昭和50年卒)

小川紀一郎略歴 (昭和50年卒)

1982年3月に北海道大学大学院農学研究科林学専攻修士課程修了。同年4月にアジア航測株式会社入社。以後、一貫して砂防調査・計画分野を中心に流砂系における土砂動態現象の解析業務に携わってきた。技術士(建設、森林、応用理学、総合技術監理)、博士(農学)。2009年10月社会基盤システム開発センター長。主な著書:「土砂災害調査マニュアル」(1988年、鹿島出版会:分担執筆)、「日本人はどのように国土をつくったか」(2005年、学芸出版社:分担執筆)、「家族を守る斜面の知識」(2009年、土木学会:分担執筆)、「空間情報による災害の記録」(2012年、鹿島出版会:分担執筆)

豊かな国土創りに日々励む
日本写真測量学会

年間一貫して砂防調査・計画分野を中心に国土保全事業の中を邁進してきました。

私は、昭和50年に船高剣道部を卒業し、ヒトナミに1年遅れで北海道へ行き、再び関東へ戻ってきて今は神奈川県で航空測量会社の社長をしています。剣道部時代では先鋒という団体戦の一番手として試合をする役で結構頑張っていました。3年の最後のインターハイには祖母の葬式で試合に出られず、玉井や棚橋、谷輪、赤倉をはじめとした部員のみんなに迷惑をかけたことを覚えています。今もそうでしたが、船高の道場は2階が剣道部で1階が柔道部でした。このため、比較的剣道部と柔道部は仲が良く、平成19年には剣道部と柔道部に陸上部女子が加わり合同同窓会もやりました。その柔道部の1年後輩にあたるあるキーパーソンが、今回のこの原稿を引き受けるきっかけとなりました。

私は、昭和51年に北海道へ渡り、大学では剣道をやめて勉学に打ち込み(〇)、農学部林学科砂防工学研究室というところに行きました。ちょうど2年生の時(昭和52年8月)に有珠山が大爆発をし、私の住む札幌市内でも薄く火山灰が積もるほどの被害がでました。大学の実習で噴火後の有珠山の調査を行い、あたり一面荒涼とした灰だらけの山と、弓のようにねじ曲げられて枯れ果てた悲惨な森林を見て、自分の進む道は「防災」「砂防」だと心を決め、大学院を卒業した後、アジア航測という航空測量会社に就職して、30

さて、わが国には日本写真測量学会という会員1,000人ほどの学会があります。そこでは、写真測量・リモートセンシング等の空間情報分野において、環境あるいは物体に関する空間的な情報を得たり、カメラに関するはセンサーにより観測された画像、データから如何に必要とする外界の情報を得るか等を主要なテーマに、専門家が団が活動しています。私は平成22年から学会員になり、学会50周年記念誌「空間情報」による災害の記録(平成24年鹿島出版会より発行)の編集委員になりました。それが、学会事務局ですべてを取り仕切っていた藤野千和子さん(昭和41年卒)との出会いです。

藤野さんは極めて聡明でかつ熱意ある方で、常に学会の様々な活動をリードしてきました。藤野さんは今から30年以上も前より東京大学生産技術研究所の村井俊治先生の秘書を務めた写真測量学会の様々な雑務も、忙しい公務の傍らでできばきと適切にこなされてこられました。その藤野さんと平成4年頃に今回の原稿の依頼をいただいた、幹事学年である村上治さん(昭和51年卒)が学会の動体計測研究会の分科会で出会ったのです。

村上さんは、船高を卒業されてから千葉大学の理学部地学科に進まれ、写真測量学を勉強された後、ベンチャー企業に設立入社し、ボーリングの穴の中

の展開画像を取得するポアホールスキャナーや航空機から地表状況を計測するスリラインセンサを開発する等、我が国を代表する国土情報計測技術者です。研究会を進めるに従って藤野さんと村上さんはお互い船高出身だということもわかって、二人はある日極秘である大きな「企画」を進めるようになったのです。それは、平成27年度の学会総会の特別講演会に野田佳彦前総理大臣(昭和51年卒)を呼ぶことでした。

講演1年前に、まずは村上さんから野田さんの了解をいただき、可能性が高いということがわかった後、藤野さんは学会幹部の了解を取り付けて特別講演会の開催までこぎつけました。あくまで野田さんには船高同窓として講演を依頼したため、藤野さんと村上さんが写真測量学会の関係者にどれだけ船高出身者がいるかを調べ上げた結果、藤野さんの姪で現在学会事務局の岩下典子さん(平成7年卒)、そして岩下さんの旦那さんである岩下杉彦さん(平成7年卒)の陸上部で1年先輩の今井靖晃(平成6年卒)さんが船高出身だということが判明しました。今井さんは航空測量会社の国際航業で大活躍されている優秀な空間情報技術者です。そして、測量機器メーカーのトプコンで企画部長をやられていた石井さん(昭和51年卒)・現在一般社団法人日本測量機器工業会事務局長、国土土地図の元社長で地図調製協会の元会長だった大塚冀一さん(昭和30年卒)も船高であるということがわかってきました。そんなある時「小川さん、あなたもフナコウでしょ」と藤野さんから不意に声をかけられました。ほとんど忘れかけていた懐かしい響きに胸がときめいた記憶が今でも鮮明に思い出されます。

野田さんの講演は本当に素晴らしいものでした。野田さんは、松下政経塾の1期生だそうで、松下幸之助さんからの教えをもとに新日本創生論を提唱しました。これは、日本の国土面積は狭いが、宇宙と海洋をフロンティアとして広げて活用していこう

というものです。そこで、宇宙基本法と海洋基本法を起草しました。尖閣諸島を国有化したのも野田さんの時代です。会場の東京駒場にある東大生産技術研究所のコンベンションホールを埋め尽くす学会会員たちは、固唾をのんで野田さんの人を引き付けるような語り口に酔いしれていました。予定の1時間できつちりと講演を終えて会場を去っていく野田さんに、私は少しお話をさせていただきました。船高同窓だと昭和51年の川口君の名前、柔道部だと昭和50年の小川君と鶴田君の名前が野田さんの口から出てきました。やはり、剣道部と柔道部とは仲良かったのです。

ということ、長々と写真測量学会と船高との関係を述べてきました。が、船高同窓会の皆さんに、空から「測量」して「地図づくり」をすることに、安全安心、地球環境、社会インフラ等々の国土基盤を支える仕事に、船高OB・OGが頑張っていることを知っていただきたいと思っています。例えば、NHK土曜日の夜7時半からブ

ラタモリが放映されています。タモリさんは地形が大好きでいつも軽妙な語り口で地形用語を分かりやすく簡単な言葉に訳して、家庭の皆さんに伝えていただいています。その番組にもアジア航測や東京地研研究社等の写真測量学会を支えるメンバーが編集協力として番組のエンドロールに顔を出させていただいています。また、平成28年度に一世を風靡した映画「シン・ゴジラ」にもアジア航測をはじめとして学会会員がエンジニアとして出てきました。近年では、効率的で高精密度な国土空間情報が整備され、それを活用した赤色立体地図や三次元都市モデルといったような様々な空間情報が皆さんに生活の一部として浸透してきています。例えば、平成20年に噴火した有珠山の赤色立体地図では、噴火活動によって発生した噴火口や地殻変動、さらには飛んで来た噴石の着地したクレーター等が良くわかります。平成29年度中には準天頂衛星「みちびき」も4機体制で日本の国土を見守る予定になっています。今後、IoTやAI、スマホ等により、様々な場面で私たちが扱っている三次元空間情報が皆さんの生活を支えるべくいくことになると思います。地味な世界ではありますが、豊かな国土創りに日々励んでいる日本写真測量学会を是非応援してください。よろしくお願いいたします。



船高剣道部 (昭和50年卒) の仲間たち
前列正面に橋本先生。後列右から2人目が小川。



有珠山の赤色立体地図 (平成20年噴火)



【学歴・職歴】
 県立長狭高校から千葉大学教育学部を卒業。卒業から昭和47年3月までの10年間を市立船橋高校、昭和47年4月から昭和60年3月の13年間を本校で過ごす。
 その後、流山北高校校長、富里高校校長を経て退職し現在に至る、78歳。



恩師探訪

「船橋高校の回想」

古市正夫 先生

「船高良いとこ一度はおいで
 上り下りの総武線
 長い車中の楽しさ見れば
 なんのこれしきこの苦勞」

ごく一部の卒業生しか知らない
 だろう船高音頭。今回の恩師探訪
 は、この船高音頭の作者である古
 市正夫先生をお尋ねして、お話を
 伺いました。

【船高在職中の思い出】

13年間の在職期間であったが、
 思い出すことが多いのは、やはり
 初めて赴任してきた頃のことだろ
 う。そのいくつかのエピソードを
 紹介したい。

・影絵「浦島太郎」

1年生の担任であった時に、ク
 ラスの文化祭の出し物として、影
 絵「浦島太郎」を発表することに
 なった。切り抜いた絵をOHPを
 使ってスクリーン上に投影する方
 法だったが、ストーリー作成、切
 り絵の作り、OHPの操作、ナ
 レーションと、クラス全員で作業
 を分担し、熱心に取り組み、人気
 のショーとなった。

この影絵は、毎年のクラス替え
 があったにも拘らず、3年間続け
 てきたのは素晴らしい。2年次
 も3年次も旧1年のクラス有志と
 して、よく集まったものだ。それ
 ぞれ自分のクラスの出し物があっ
 たはずなのに。物語「浦島太郎」
 も回を重ねる毎に変化し、「太郎」
 が宇宙旅行から地球へ帰還する物
 語へと創作された。ここで小生が
 一番感動したのは、旧1年の有志
 諸君が卒業の時、3年間作り続け
 た影絵の全てを、高校近くの幼稚
 園に「子供たちのために使ってく

ださい」と寄贈
 したことだ。さ
 すが船高生と今
 でも思っている
 ・修学旅行での
 飲酒事件
 これは2年生
 の修学旅行での
 出来事。当時、
 護院御殿荘での2日目の深夜、
 我々職員が寝ている部屋に一人の
 男子生徒が入ってきて、「先生、
 気分が悪いんです、どうしたら良
 いですか?」と。この重大事件は
 この一言から始まる。

した。彼女は今、元気だろうか?
 どうしているのだろうか?ぜひ、
 会ってみたいものだ。
 ・卒業式当日の最後のホームルー
 ム
 船高での最初の3年生の担任と
 なった卒業証書授与式。クラス代
 表の青山君がクラス全員の卒業証
 書をしっかりと受領(青山君あり
 がとうと心の中で祈った)。
 教室に戻り最後のホームルー
 ム。担任として何を話したかは、
 もうすっかり忘れてしまったが、
 黒板に「捲土重来」と大書したこ
 とと、草野君が指揮をして合唱コ
 ンクールで歌った歌をクラス全員
 で歌ってくれたことを、担任への
 心のこもった何よりのプレゼント
 だと感動した。指揮する草野君の
 涙を見て、小生ももらい泣きした
 ことが思い出深い。

・正面玄関上の秘密基地

これは、船高在職の最後の頃
 だったと記憶している。たぶん向
 かいの中学生が作ったものだと
 思っていたのだが、正面玄関の庇
 の上、本館建屋2階部分との間に
 1mに満たない隙間の空間があ
 り、そこにマットレスやら成人向
 け週刊誌やらを持ち込んで秘密基
 地が作られていたのが発見され
 た。這って入ることしかできない
 ような狭い空間で、よくぞこんな
 ところに物を持ち込んだものだ
 と、妙に感心してしまった。

【現状の「K」】

今、地元の小学校へ週2回、学
 習支援員として通っており、6年
 生の算数の授業(とり出し授業)
 を担当している。今年で5年目と
 なったが、授業は楽しいし、自分

のボケ防止のために役立っている
 に違いない。「今日の授業は良く
 できた」と自分自身で思えるのは
 月に1回あるかないかで、授業は、
 子供たちに教えるのは、難しいと
 思っている今日この頃。
 さらに、地元の佐倉時治台で自
 治会の集会所をお借りして、学習
 教室「あすなろ」を開いて6年目
 となった。英語の担当であるもう
 一人の退職者の方と二人でやって
 いる。

現在、小学校1年生、中学校1
 年生、高校3年生の3人が毎週土
 曜日の午前中に通ってきている。
 これら二つの活動はボランティア
 としてやっているが、元気な内は
 これからも頑張っていきたい。

また、佐倉市の環境保全に関す
 る事項を調査・審議する市長の諮
 問機関である環境審議会の審議委
 員を、昨年より2年間の年限で委
 嘱を受けて活動している。



同窓会役員名簿

Table listing alumni officers including 名誉会長, 会長, 副会長, 理事, 事務局, and 教頭. Includes names and graduation years.

平成29年9月1日現在

Table listing alumni officers including 理事, 事務局, 副校長, 教頭, and 事務局長. Includes names and graduation years.

事業報告・事業計画(総会報告)

本年度の総会は、平成28年度事業・決算の報告、平成29年度事業計画・予算の承認、役員改選、規則改正、100周年記念事業等を議題として、8月6日に開催されました。

平成28年度決算及び平成29年度予算

Table showing financial data for 平成28年度決算 and 平成29年度予算. Columns include 科目, 29年度予算, 28年度予算, 28年度決算, 27年度決算.

Table showing financial data for 平成28年度決算 and 平成29年度予算. Columns include 科目, 29年度予算, 28年度予算, 28年度決算, 27年度決算.

部活動報告

放送委員会3年 三野 杏夏
今回、NHK杯全国高校放送コンテストに参加し、テレビドキュメント部門に『Project G』という約8分のテレビドキュメント番組を出品し、千葉県最優秀賞と全国準優勝を受賞することができました。



構成に悩んだり、撮影や編集で苦労したりと、多忙な中でこの番組作りはかなり大変でした。でも、放送委員のメンバーが何度も撮影や取材に向かい、完成を見てたくさん意見を言っていたりして、協力してくれました。ただ、正直全国大会に出場できると思っておらず、ましてや決勝にまで進出するなんて、私たちが誰も予想していませんでした。決勝出場が決まったときは、驚きすぎて涙も出ませんでした。でも、初めて入った決勝の会場であるNHKホールで、スクリーンに『Project G』と映った瞬間にそれだけで会場から笑い声があがったのは、本当に嬉しいことでした。

構成に悩んだり、撮影や編集で苦労したりと、多忙な中でこの番組作りはかなり大変でした。でも、放送委員のメンバーが何度も撮影や取材に向かい、完成を見てたくさん意見を言っていたりして、協力してくれました。ただ、正直全国大会に出場できると思っておらず、ましてや決勝にまで進出するなんて、私たちが誰も予想していませんでした。決勝出場が決まったときは、驚きすぎて涙も出ませんでした。でも、初めて入った決勝の会場であるNHKホールで、スクリーンに『Project G』と映った瞬間にそれだけで会場から笑い声があがったのは、本当に嬉しいことでした。

※準優勝受賞作品『Project G』は、NコンTEB (http://www.nhk.or.jp/event/n-con/nc-contents/hvideo_ivdoc.html) で視聴いただけます。ご覧いただけますと嬉しいですが、虫に弱い方はくれぐれもご注意ください。

母校の現況

平成29年度

運動系部活動の番号区分

- 1 28年度新人大会
2 29年度関東大会予選
3 29年度県高校総体
4 その他

運動系部活動

- 野球
1 秋季県大会 2 回戦 ベスト32
2 春季県大会 1 回戦敗退
3 選手権千葉大会 3 回戦敗退
陸上競技
1 男子三段跳 田中 4 位
2 男子棒高跳 海老田 4 位
3 女子走幅跳 坂田 3 位
4 女子三段跳 坂田 7 位

- 男子棒高跳 海老田 4 位
女子走幅跳 坂田 3 位
女子三段跳 坂田 7 位
日本コース選手権出場
3 男子棒高跳 海老田 6 位
女子走幅跳 坂田 5 位
関東大会出場

- 水泳
1 水球 2 回戦敗退
2 水球 B決勝進出 3 名
3 水球 競泳 県高校選手権 4 位
4 水球 競泳 県高校選手権
男200背泳ぎ 4 位
女50背泳ぎ 7 位
女100背泳ぎ 8 位

- サッカー
1 県大会ベスト16
2 県大会ベスト32
3 県大会ベスト32
4 高校選手権千葉県大会
決勝トーナメント代表決定戦敗退

- 柔道
1 2 3 地区予選敗退
2 3 年生1名2年生3名1年生5名
合計9名で活動中。寝技中心。
合同練習も定期的に実施

- 剣道
1 男子団体 県大会2回戦
2 男子団体 県大会2回戦
3 男子団体 県大会1回戦
4 男子団体 県大会1回戦
5 男子団体 地区敗退
6 男子団体 地区敗退
7 男子団体 地区敗退
8 男子団体 地区敗退
9 男子団体 地区敗退
10 男子団体 地区敗退
11 男子団体 地区敗退
12 男子団体 地区敗退
13 男子団体 地区敗退
14 男子団体 地区敗退
15 男子団体 地区敗退
16 男子団体 地区敗退

- 1 県大会1回戦 ベスト16
2 県大会4回戦 準優勝
3 千葉県地区選抜対抗大会
4 4名が第9地区選抜に選出
スターの1名が大会優秀選手(ベスト5)

- バレーボール男子
1 県大会2回戦
2 地区予選敗退
3 県大会2回戦
4 地区予選敗退
バレーボール女子
1 地区予選敗退
2 地区予選敗退
3 県大会2回戦
テニス
1 男子 県大会3回戦 ベスト16
2 男子 県大会2回戦
3 男子 県大会1回戦
4 男子 県大会1回戦
5 男子 県大会1回戦
6 男子 県大会1回戦
7 男子 県大会1回戦
8 男子 県大会1回戦
9 男子 県大会1回戦
10 男子 県大会1回戦
11 男子 県大会1回戦
12 男子 県大会1回戦
13 男子 県大会1回戦
14 男子 県大会1回戦
15 男子 県大会1回戦
16 男子 県大会1回戦

- ソフトテニス
1 男子団体 県大会2回戦
2 男子団体 県大会2回戦
3 男子団体 県大会2回戦
4 男子団体 県大会2回戦
5 男子団体 県大会2回戦
6 男子団体 県大会2回戦
7 男子団体 県大会2回戦
8 男子団体 県大会2回戦
9 男子団体 県大会2回戦
10 男子団体 県大会2回戦
11 男子団体 県大会2回戦
12 男子団体 県大会2回戦
13 男子団体 県大会2回戦
14 男子団体 県大会2回戦
15 男子団体 県大会2回戦
16 男子団体 県大会2回戦

- 卓球
1 男子団体 県大会出場
2 男子団体 県大会出場
3 男子団体 県大会出場
4 男子団体 県大会出場
5 男子団体 県大会出場
6 男子団体 県大会出場
7 男子団体 県大会出場
8 男子団体 県大会出場
9 男子団体 県大会出場
10 男子団体 県大会出場
11 男子団体 県大会出場
12 男子団体 県大会出場
13 男子団体 県大会出場
14 男子団体 県大会出場
15 男子団体 県大会出場
16 男子団体 県大会出場

- ダンス
1 男子個人 渡邊 5 位
2 男子個人 渡邊 5 位
3 男子個人 渡邊 5 位
4 男子個人 渡邊 5 位
5 男子個人 渡邊 5 位
6 男子個人 渡邊 5 位
7 男子個人 渡邊 5 位
8 男子個人 渡邊 5 位
9 男子個人 渡邊 5 位
10 男子個人 渡邊 5 位
11 男子個人 渡邊 5 位
12 男子個人 渡邊 5 位
13 男子個人 渡邊 5 位
14 男子個人 渡邊 5 位
15 男子個人 渡邊 5 位
16 男子個人 渡邊 5 位

- 文化系部活動
1 千葉県合唱コンクール 銀賞
2 千葉県合唱コンクール 銅賞
3 千葉県合唱コンクール 銅賞
4 千葉県合唱コンクール 銅賞
5 千葉県合唱コンクール 銅賞
6 千葉県合唱コンクール 銅賞
7 千葉県合唱コンクール 銅賞
8 千葉県合唱コンクール 銅賞
9 千葉県合唱コンクール 銅賞
10 千葉県合唱コンクール 銅賞
11 千葉県合唱コンクール 銅賞
12 千葉県合唱コンクール 銅賞
13 千葉県合唱コンクール 銅賞
14 千葉県合唱コンクール 銅賞
15 千葉県合唱コンクール 銅賞
16 千葉県合唱コンクール 銅賞

- 将棋
1 千葉県高文連将棋新人大会
2 千葉県高文連将棋新人大会
3 千葉県高文連将棋新人大会
4 千葉県高文連将棋新人大会
5 千葉県高文連将棋新人大会
6 千葉県高文連将棋新人大会
7 千葉県高文連将棋新人大会
8 千葉県高文連将棋新人大会
9 千葉県高文連将棋新人大会
10 千葉県高文連将棋新人大会
11 千葉県高文連将棋新人大会
12 千葉県高文連将棋新人大会
13 千葉県高文連将棋新人大会
14 千葉県高文連将棋新人大会
15 千葉県高文連将棋新人大会
16 千葉県高文連将棋新人大会

- 囲碁
1 千葉県高校囲碁秋季大会
2 千葉県高校囲碁秋季大会
3 千葉県高校囲碁秋季大会
4 千葉県高校囲碁秋季大会
5 千葉県高校囲碁秋季大会
6 千葉県高校囲碁秋季大会
7 千葉県高校囲碁秋季大会
8 千葉県高校囲碁秋季大会
9 千葉県高校囲碁秋季大会
10 千葉県高校囲碁秋季大会
11 千葉県高校囲碁秋季大会
12 千葉県高校囲碁秋季大会
13 千葉県高校囲碁秋季大会
14 千葉県高校囲碁秋季大会
15 千葉県高校囲碁秋季大会
16 千葉県高校囲碁秋季大会

- 美術
1 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
2 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
3 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
4 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
5 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
6 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
7 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
8 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
9 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
10 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
11 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
12 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
13 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
14 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
15 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
16 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品

- 現代文化研究
1 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
2 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
3 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
4 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
5 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
6 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
7 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
8 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
9 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
10 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
11 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
12 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
13 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
14 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
15 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品
16 千葉県立文化祭美術工芸作品展出品

- 放送委員会
1 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
2 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
3 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
4 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
5 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
6 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
7 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
8 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
9 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
10 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
11 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
12 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
13 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
14 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
15 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト
16 第64回NHK杯全国高校放送コンテスト

- 生活体験発表
1 千葉県立文化祭生活体験発表会
2 千葉県立文化祭生活体験発表会
3 千葉県立文化祭生活体験発表会
4 千葉県立文化祭生活体験発表会
5 千葉県立文化祭生活体験発表会
6 千葉県立文化祭生活体験発表会
7 千葉県立文化祭生活体験発表会
8 千葉県立文化祭生活体験発表会
9 千葉県立文化祭生活体験発表会
10 千葉県立文化祭生活体験発表会
11 千葉県立文化祭生活体験発表会
12 千葉県立文化祭生活体験発表会
13 千葉県立文化祭生活体験発表会
14 千葉県立文化祭生活体験発表会
15 千葉県立文化祭生活体験発表会
16 千葉県立文化祭生活体験発表会

- 生活体験発表
1 千葉県立文化祭生活体験発表会
2 千葉県立文化祭生活体験発表会
3 千葉県立文化祭生活体験発表会
4 千葉県立文化祭生活体験発表会
5 千葉県立文化祭生活体験発表会
6 千葉県立文化祭生活体験発表会
7 千葉県立文化祭生活体験発表会
8 千葉県立文化祭生活体験発表会
9 千葉県立文化祭生活体験発表会
10 千葉県立文化祭生活体験発表会
11 千葉県立文化祭生活体験発表会
12 千葉県立文化祭生活体験発表会
13 千葉県立文化祭生活体験発表会
14 千葉県立文化祭生活体験発表会
15 千葉県立文化祭生活体験発表会
16 千葉県立文化祭生活体験発表会

- 生活体験発表
1 千葉県立文化祭生活体験発表会
2 千葉県立文化祭生活体験発表会
3 千葉県立文化祭生活体験発表会
4 千葉県立文化祭生活体験発表会
5 千葉県立文化祭生活体験発表会
6 千葉県立文化祭生活体験発表会
7 千葉県立文化祭生活体験発表会
8 千葉県立文化祭生活体験発表会
9 千葉県立文化祭生活体験発表会
10 千葉県立文化祭生活体験発表会
11 千葉県立文化祭生活体験発表会
12 千葉県立文化祭生活体験発表会
13 千葉県立文化祭生活体験発表会
14 千葉県立文化祭生活体験発表会
15 千葉県立文化祭生活体験発表会
16 千葉県立文化祭生活体験発表会

- 生活体験発表
1 千葉県立文化祭生活体験発表会
2 千葉県立文化祭生活体験発表会
3 千葉県立文化祭生活体験発表会
4 千葉県立文化祭生活体験発表会
5 千葉県立文化祭生活体験発表会
6 千葉県立文化祭生活体験発表会
7 千葉県立文化祭生活体験発表会
8 千葉県立文化祭生活体験発表会
9 千葉県立文化祭生活体験発表会
10 千葉県立文化祭生活体験発表会
11 千葉県立文化祭生活体験発表会
12 千葉県立文化祭生活体験発表会
13 千葉県立文化祭生活体験発表会
14 千葉県立文化祭生活体験発表会
15 千葉県立文化祭生活体験発表会
16 千葉県立文化祭生活体験発表会

- 生活体験発表
1 千葉県立文化祭生活体験発表会
2 千葉県立文化祭生活体験発表会
3 千葉県立文化祭生活体験発表会
4 千葉県立文化祭生活体験発表会
5 千葉県立文化祭生活体験発表会
6 千葉県立文化祭生活体験発表会
7 千葉県立文化祭生活体験発表会
8 千葉県立文化祭生活体験発表会
9 千葉県立文化祭生活体験発表会
10 千葉県立文化祭生活体験発表会
11 千葉県立文化祭生活体験発表会
12 千葉県立文化祭生活体験発表会
13 千葉県立文化祭生活体験発表会
14 千葉県立文化祭生活体験発表会
15 千葉県立文化祭生活体験発表会
16 千葉県立文化祭生活体験発表会

- 生活体験発表
1 千葉県立文化祭生活体験発表会
2 千葉県立文化祭生活体験発表会
3 千葉県立文化祭生活体験発表会
4 千葉県立文化祭生活体験発表会
5 千葉県立文化祭生活体験発表会
6 千葉県立文化祭生活体験発表会
7 千葉県立文化祭生活体験発表会
8 千葉県立文化祭生活体験発表会
9 千葉県立文化祭生活体験発表会
10 千葉県立文化祭生活体験発表会
11 千葉県立文化祭生活体験発表会
12 千葉県立文化祭生活体験発表会
13 千葉県立文化祭生活体験発表会
14 千葉県立文化祭生活体験発表会
15 千葉県立文化祭生活体験発表会
16 千葉県立文化祭生活体験発表会

- 生活体験発表
1 千葉県立文化祭生活体験発表会
2 千葉県立文化祭生活体験発表会
3 千葉県立文化祭生活体験発表会
4 千葉県立文化祭生活体験発表会
5 千葉県立文化祭生活体験発表会
6 千葉県立文化祭生活体験発表会
7 千葉県立文化祭生活体験発表会
8 千葉県立文化祭生活体験発表会
9 千葉県立文化祭生活体験発表会
10 千葉県立文化祭生活体験発表会
11 千葉県立文化祭生活体験発表会
12 千葉県立文化祭生活体験発表会
13 千葉県立文化祭生活体験発表会
14 千葉県立文化祭生活体験発表会
15 千葉県立文化祭生活体験発表会
16 千葉県立文化祭生活体験発表会

おたより彼れ是れ

齊藤きみ子(旧姓滝口)(昭和40年卒)
定年退職して10年余。日々、自然を相手に生活しています。このところ、畑に猪侵入し、作物を荒らしまわり、困っています。

篠原 壯夫(昭和38年卒)
2005年3月に定年退職し、年金生活になりました。あと何回お正月を迎えられるか?「冥土のみちの一里塚」とも邪掬われますが、健康であれば何回かは多く正月を迎えられます。同窓会の盛会を祈念します。

田中 光三(昭和35年卒)
今年も同窓会便りをお送りいただきありがとうございます。私も後期高齢者の仲間入りをしました。今のごころ元気にしております。

植松 裕子(旧姓古屋)(平成8年卒)
来年、不惑の年を迎えます。歳を経るごとに昔の仲間と再びつながりたいという気持ちが強くなり、同窓会活動にも積極的に関わらなければという責任感を感じますが、仕事の忙しさを理由に動けずしております。

大畑 文昭(昭和39年卒)
3年間谷津から徒歩で通った学舎、あれから50年を超える月日を送ってきました。人生を振り返る時、船橋高校での思い出が走馬灯のように巡ります。残された人生、卒業生としての誇りを持って過ごしたいと思っております。

山口 勇(昭和39年卒)
今年も同窓会だよりが郵送されて来た。一年は早いもので、年と共にスピードが増してくる。来年も健康に気をつけて同窓会だよりが送られて来るのを楽しみに待つて居ます。

金子 幸子(旧姓金子)(昭和35年卒)
安富さんの記事懐かしく読ませていただきました。私も同じでした。今は車椅子で誰かに押ししてもらわないとどこへも一人で出られません。若かつた頃が懐かしいです。

高橋 陽子(旧姓小島)(昭和36年卒)
同窓会だより毎号楽しみに拝読しています。29号のわが同窓、根本慎太郎氏

の文のなかに私の甥、風間の名前を発見。天台球場に亡き姉と応援に行ったことをなつかしく思い出しました。

荻島 和男(昭和43年卒)
週3日勤務、ジョギングにテニス、そして6人の孫の相手をしたりと、忙しくも楽しく過ごしております。若手の教育や経験に根ざしたアドバイスを、やりがいを感じています。そのベースを育んでくれた船高、感謝しています。

黒瀬志津子(旧姓小林)(昭和44年卒)
最近、「太極拳」の教室に通い始めました。体力の低下が少しでも遅れて欲しいという思いからです。皆様もどうぞ健康でお過ごしください。

池松 保央(昭和28年卒)
予想外に長生きしています。想定外に転がりこんで来た時間を何に当てるか感う此の頃です。

根岸 晋(昭和32年卒)
老人となつてを、ものすごく元気で毎日いろんなことをやっております。年齢は83才です。いつもこのハガキが来るのと、とにかく同窓会全体の方々の元気そうな様子が見えて来ます。「名簿」も早く出来るといいです。これからもよろしくたのみです。

小井土 武(昭和28年卒)
80才で一線を離れましたが、まだ余生の生き方を模索中です。元気の証拠ですかね?!

森 良治(昭和31年卒)
在学中放送委員会に所属していました。ホームページで見ると現在大変な活躍の様子。埼玉からメールを送ります。

金子 一雄(昭和26年卒)
先が短くなったので、まとめて前納しようかと思つたら会費納入者リストに名前を見つけて安心すると言つて下さつた方がいらしたので、元気なうちは毎年納付します。

匿名50歳となり、自らの人生を振り返つた時に、高校時代の恩師、友人、学舎の存在の大きさを再認識しております。母校の益々の発展と後輩の益々の活躍をお祈り致します。以前から、非認識学力の育成が出来るころでした。これからも文武両道で!!

中島 雅子(旧姓辻)(昭和36年卒)
読書会で地域の民話を集め、本に出版、その中から紙芝居を作り、更にそれをDVDにして敬老会や幼稚園小学校で披露しています。

捧 陽子(旧姓田中)(昭和43年卒)
懐かしくおたより拝読しました。元氣に、太極拳を続けております。陸上競技部でインターハイに行けたことは今も懐かしい思い出です。現役の方もがんばつているなど感慨深いです。PS.アニメ「この世界の片隅に」見てない方は是非観て下さい。

久保 和秀(昭和44年卒)
40年ぶりに剣道場を訪れ、現役高校生や先生と竹刀を交えることができまして、補習授業を終えてから来る生徒もいて、文武両道を実践しているなど感心しました。

須合 賢一(昭和61年卒)
先日、会社の人事部主催のあるセミナーに参加しました。とても良い内容で、あとからセミナー講師が船高の先輩であることがわかりました。その後もメルマガを継続して拝読しています。私もとて親近感を感じています。思わず先日船高のおり、船高までウオーキングをしました。おそらく20年ぶりぐらいに見た母校です。

華志志満子(旧姓安川)(昭和49年卒)
船高を卒業して40年以上たちますが、今でも、旧友達のおしやべりは楽しい時間です。先日、卒業アルバムを囲んで、同期生の話で盛り上がりました。同期会の開催が楽しみです。

山岸 佳子(旧姓山岸)(昭和47年卒)
なかなか出席できず、残念。子供の結婚式の直前の為、カゼもひけず、ころぶことも出来ません。ころぶと骨折する年ごろです。人生は短いです。書道部で浅見錦龍先生にお世話になりました。先生の訃報に接し、悲しかったです。

高橋 洋子(旧姓後藤)(昭和49年卒)
11月ももって足かけ40年になる職場を去りました。時間に余裕ができるかと思つたのですが、母の介護や身辺整理で忙しい毎日過ごしています。それでは趣味のパドミントンで汗を流すことはかかしていません。

鈴木 聡司(昭和58年卒)
同窓会だより懐かしく拝見しております。今号では同級だったことのある佐藤氏が母校の教職の職にあると知り、ただただ驚いています。

奥永 俊哉(昭和58年卒)
毎年12月に届く「船高だより」を楽しみにしています。今年も同級生の佐藤教頭と、根本医師の両「先生」の共演に大いに励みを頂きました。3年間机を並べた仲間が各界で活躍されている事に、自分もまだまだ頑張らねばとの思いを強くしました。どうも有難うございました。

大木 忠郎(旧職員)
今年の誕生日で米寿を迎えます。まだ元気で週に3日、松戸の聖徳大学で社会人の講座を6クラス担当しています。授業のない日はハーマン力仲間と施設訪問などをしていきます。

安富 伸子(旧姓藤竹)(昭和34年卒)
同窓会運営費の納入者の中に同級生や先輩の懐かしい名前を発見しますと嬉しみます。お元気でいらつしやう。私も心ばかりですが生存の証明の為に続けて送らせていただこうと思いましたが、役員の皆様ありがとうございます。

須藤 欽平(昭和28年卒)
昭和27年6月27日、講堂での校歌発表を思い出します。お話の後で皆が合唱すると作曲家山田耕柁氏が「アレ!もう歌えるじゃないですか!」とビックリ。実はクラス担任で音楽の景山先生による直前練習がその秘密でした。

近藤 久夫(昭和29年卒)
我が母校にボーイスカウトがあったのをご存知ですか。部活動の一つとして活動してありました。「船橋第二隊」と称し「日本ジャンボリー」にも参加しております。高校にボーイスカウトがあったのは、全国的にも珍しかったようです。

※「日本ジャンボリー」というのは、ボーイスカウトの全国大会です。

宮本 恭子(旧姓市村)(昭和55年卒)
私は55年卒ですが、その年に入学して58年に卒業の方のお便りや編集後記が目立ちます。55年卒の我々も毎年プチ同窓会を何回か開き親睦を深めています。今でも校歌をそらで歌えます。船高はやはり我が母校!

創立百周年記念 現役・OBOG合同 演奏企画画!

創立百周年を記念して、歴史と実績のある部活動であるオーケストラ部(旧器楽部)・合唱部の現役・OBOG合同の演奏会を企画しております。既に、指揮者は当校卒業生でもある田久保裕一氏の内諾をいただいております。

来年度には実行委員会を発足する予定で準備を進めております。

※オーケストラ部(旧器楽部)・合唱部のOBOGの皆様へ

皆様のご協力なくして実現不可能と思われまふ。今後発足予定の実行委員会から、色々とご相談させていただきます。と思われまふので、ご協力の程、何卒よろしく願ひいたします。

昭和49年卒 器楽部OG 大浦 成子

編集後記

十月に入り、朝晩の冷涼な風に秋を感じていたのも束の間、三年模試が実施された昨日は夏に逆戻り。とても暑かった。

今週末は通称「リクタイ」が予定されている。小生が在校中には無かつた行事のひとつだ。「校内陸上競技大会」という。市の運動公園を借りて、本格的に実施されている。

第三十一回というから、私には馴染みの無い「リクタイ」だが、今や意外にも歴史あるものとなつてきているようだ。生徒たちは実に真剣に競技に取り組んでいて、全力で新記録に挑む。昭和のあの日、校庭でほんわかパン喰い競争などをやっていた頃とは隔世の感がある。

平成の後輩たちはみんな素直で真っ直ぐで人懐っこい。何にでも全力投球だ。昭和ブルースな鬨りでは微塵もなく、70年代のグレーン時代を斜に構えて育つた我々とは異なるイノセントな世代だ。頑張れ、後輩たちよ。遅しく!

(昭和五十五年卒 N)